

## 市長と語ろう地域ミーティング [ 白山地区 ] 開催結果

開催日時	平成 21 年 5 月 20 日 ( 水 ) 午後 7 時 30 分 ~ 9 時
会場	白山いこい館
出席者	( 地区 ) 5 3 人 ( 男 4 5 人 女 8 人 ) ( 市側 ) 市長、産業環境部理事、スポーツ課長、 企画部政策幹、建設部政策幹、都市整備課長
進行	秘書広報課長
記録	政策推進課
担当	( 市民自治推進課 ) ( 秘書広報課 )

### 市民憲章唱和

しらやま振興会 会長 あいさつ

本日は、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。本日は、年に 1 度の地域ミーティングです。地区の課題や要望等を市の方々に聞いていただき、私たちとしては市からの回答をお聞きしたいと思えます。ただ今から、地域ミーティングを開催させていただきますが、皆さんからも、まちづくり等について日頃感じていることなど、活発なご意見をお願いしたいと思えます。

### 市長あいさつおよび説明

( 別添参照 )

しらやま振興会より、白山地区の取組みやまちづくりの説明

( パワーポイントを使用しての説明 )

ダム建設計画による集落の移転などにより、世帯数は年々減少し、さらに通勤の利便性を求めての転出など、人口の減少は今後も続く可能性があります。

しかし、白山地区は日本の原風景を残す地域の一つです。住民自らが発想を変えて、自然豊かですばらしい地域に誇りを持って住んでいると思うことが大切です。先人が汗して築いてきた山干飯<sup>やまがれい</sup>の里を、今住んでいる私たち自らが守る心を持たなければならぬと思えます。通勤、通学の不便さは多少あるものの、それに勝る先祖から受け継いだ大切な文化や自然環境を保全再生し、後世に伝えていかなければなりません。

また、地域の人々が、いきいきと暮らす里地里山の保全再生を目指している当会とし

では、福井新聞社が主に当地区と坂口地区で展開する自然と共生できる社会環境の実現に向けた「みらい・つなぐ・ふくいプロジェクト」、「コウノトリ呼び戻す農法」を目指す農業者、さらに「水辺と生き物を守る農家と市民の会」との協働で事業を展開して、地区民と共に地域の活性化に努めていきたいと思っております。

## 出席職員の紹介

### 意見交換

#### 代表質問

Q1：しらやま振興会会長

#### <いこい館の宿泊施設整備について>

子ども農山漁村交流プロジェクト等の宿泊体験活動を当地区においても受け入れ、子どもたちに豊かな里地里山の生活を体験してもらいたいと思っております。しかし、当地区には農家民泊はできるようになりましたが、まとめて宿泊させる施設が無い状態です。現在の施設を有効に活用していくには、いこい館を宿泊できるように改修整備することが必要と考えます。地区外の人々との交流活動の拠点基地としての整備をお願いします。

また、いこい館は2階建て構造となっていますが、2階部分にはトイレがなく、トイレに行くためには、その都度1階まで階段を使って降りなければなりません。このことが不便であるため、2階部分にもトイレを設置していただきたいと思っておりますが、市としてはいかがでしょうか。

A1：産業環境部理事

いこい館は、越前市西部農村地域における諸団体の農業経営及び農村生活の改善・合理化等に係る会議などを開催する目的で建設された集会施設であり、宿泊施設としての活用については考えておりません。

つきましては、団体用宿泊施設としては、金華山グリーンランドやJA研修所をご活用いただけますようお願いいたします。

トイレの設置要望の件につきましては、一旦持ち帰り、検討させていただきたいと思っておりますのでよろしくようお願いいたします。

Q2：しらやま振興会

#### <有効な鳥獣害対策について>

当地区は、イノシシなどによる鳥獣被害が多い地区です。一方で、当地区は里地里山保全再生、希少野生生物保全、コウノトリ呼び戻す農法等の取組みによる安心安全な農産物の生産を進め、人も生き物も元気が出る里地里山を創ることを進めております。そのため、

イノシシなどの鳥獣被害対策が急務であると考えますが、良い方策がありましたらご教授願います。

#### A 2：産業環境部理事

有害鳥獣から耕作地を守るためには、中山間地域等直接支払い制度を活用し、山ぎわの草刈による緩衝地帯の確保と、防除対策として電気柵の設置が現在、有効な手段とされています。

これまでに、白山地区では16町内において電気柵を設置していただいたところです。

現在、市では、イノシシ等による農作物への被害が発生した場合に、区長または農家組合長からJA越前たけふへ申請があれば、猟友会に檻設置を依頼し、有害鳥獣の捕獲を実施しているところであります。

また、本年度より県の新規事業として、山ぎわへの野生動物進入防止用緩衝帯等を設置する県鳥獣害対策緩衝地帯創生モデル事業が創設されました。市では、県のモデル事業や市単独事業として、この事業の導入に向けた取組みを検討しているところです。

今後とも、効果的な捕獲を進めるために、市・JA・猟友会等の関係機関が連携を密にし、農作物の被害防止に努めてまいりますので、地域の皆さまのご協力をお願いいたします。

#### Q 3：しらやま振興会

##### <「みどりと自然の村」の指定管理者申請について>

昨年、地域振興の大きな足がかりとなることを願い、「みどりと自然の村」の指定管理を受ける申請をしましたが、選定にいたりませんでした。

結果の通知では詳細が分からないため、どのような評価を受けて漏れたのか、教えていただきたいと思っております。

#### A 3：スポーツ課長

「みどりと自然の村」の指定管理者につきましては、昨年9月に募集をしたところ3事業所から応募があり、市の条例（越前市公の施設に係る指定管理者の指定の手續等に関する条例）に基づき、行政と利用団体を含む7人の委員で構成する指定管理者選定会議において、基準点を越え、かつ最も点数の高い事業所に決定する総合点数方式により、指定管理者の選定を行いました。

選定は、次の5項目について7人の委員それぞれが採点を行い、実施しました。

市民の平等な利用が図られること。

公の施設の効用を最大限に発揮するものであること。

公の施設の適切な維持及び管理並びに管理に係る経費の縮減が図られるものであること。

公の施設の管理を安定して行う人員、資産その他の経営の規模及び能力を有しており、又は確保できる見込みがあること。

市長等が公の施設の性質又は目的に応じて指定する基準としての「環境対策への配慮」。以上、5項目です。

その結果、最も点数が高かった「越前市施設管理事業団」が指定管理者として選定され、12月議会において承認されました。

5項目の総合点数は、しらやま振興会が73.93、事業団が79.64で、その差5.71という結果でした。

環境対策への配慮の項目では、しらやま振興会が里地里山の自然環境の保全など意識が高い取組みを提案し、他の団体を上回っていますが、残り4項目では、事業団がより効果的で具体性のある提案をし、他の団体を上回っています。

事業団から提案があった内容としましては、例えば、

- ・冬期の施設閉鎖期間中に、事業団が指定管理者として管理を受託している他施設と連携した利用促進プランを、各学校、団体等へPRするために出向宣伝を実施することや、新しく民間企業との連携による利用者拡大に向けた取組みの提案。
- ・トラブル発生時に想定される原因と対処法がきめ細かく定められているマニュアルの提示。
- ・常駐職員を1人から2人体制とする管理体制強化の提案。
- ・組織体制、指揮命令系統、企画会議の開催などすでに確立されている組織運営の実績。などが、全体の評価につながったと考えております。

なお、「みどりと自然の村」の指定管理者の審査の結果につきましては、越前市のホームページにて公開をしております。

#### 意見交換

Q4：千合谷町

<武生米ノ線の整備について>

市長には、市政の推進にご尽力いただき感謝申し上げます。

千合谷の米ノ線の道路拡幅について、ダム事務所からは29年度にダムは完成すると聞いていますが、工事が終了するまでに、早期の拡幅実施を採択してもらえよう願っています。

A4-1：建設部政策幹

市も何年も前から県にお願いしていますが、県からは、全線について何年度までに完成するとの明確な回答はありません。市は、現在、戸谷片屋線を最重要課題と位置づけて整備を行っていますので、ご理解をお願いします。

なお、今後も引き続き、県に対して重要要望事項として要望してまいります。

A 4 - 2 : 市長

5月11日に丹南土木事務所長、吉野瀬川ダム事務所長にお会いしており、吉ノ瀬川ダムと併せて、武生米ノ線の重要性については十分に説明しております。今後も、引き続き粘り強く要望してまいりますので、地元の方のご支援もお願いします。

Q 5 : 安養寺町

<学童保育について>

白山地区での学童保育について、現在は安養寺保育園で少数お願いしておりますが、今後利用が増える可能性もあります。

白山地区における学童保育について、今後の方向性も含めて教えていただきたいと思えます。

A 5 : 市長

子どもの放課後対策としましては、福祉保健部が行う学童保育と、教育委員会で行っている地域子ども教室等があり、地区の方々にご協力いただいて実施しています。今後はモデル地区を設けて、放課後の子どもの一体的な居場所づくりについて研究していきたいと考えております。その中で、全体的な学童保育のあり方についても検討していきたいと考えております。

Q 6 : 安養寺町

<イノシシ対策について>

イノシシ増加に対する対策について、現在は檻で捕まえたイノシシのうち、小さいイノシシは放しているのが現状です。このため、イノシシの数の増加が著しく、被害も深刻化しています。小さいイノシシも駆除する対策を講じていただきたいと思えます。

A 6 : 産業環境部理事

イノシシの他にも、シカやその他の小動物による農作物被害があると聞いておりますので、小さいイノシシの対策も含め、県および市が連携して考え、取り組んでいきたいと考えております。

Q 7 : 安養寺町

<住みよさランキングについて>

先般「住みよさランキング」の記事が新聞に載っており、越前市は下位の位置にありました。この新聞記事に対する市長の思いをお聞かせください。

A 7 : 市長

掲載された新聞記事の「住みよさランキング」では、越前市は下位に位置しているのですが、ランキングについては、何を指標にするかといった指標の設定によって大きくランクされる位置が変わります。

例えば、越前市は働き場の多い自治体でありますので、働き場の利便性などに関連した評価項目が多い場合には、本市の評価が高くなる傾向にあると考えられます。

地方分権が進む中で、地域の自立力がどれだけあるかが問われてくると思いますが、本市の産業力、自治力などは、県内他市と比較しても引けを取らないと考えております。

閉会の辞